

## 1 2 . 医学部

医学部の教育目的と特徴	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 2	
分析項目ごとの水準の判断	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 3	
分析項目	教育の実施体制	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 3
分析項目	教育内容	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 8
分析項目	教育方法	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 15
分析項目	学業の成果	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 21
分析項目	進路・就職の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 25
質の向上度の判断	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 - 28	

## 医学部の教育目的と特徴

### 1 医学部の教育目的

強い倫理観に基づき、生命や人間の尊厳に基づく心豊かな教養と高度な専門知識・技能を備え、医学及び関連領域における社会的な使命を追及し、達成し得る医師ならびに看護師、診療放射線技師、臨床検査技師などの専門医療人を育成することを目的としている。

### 2 医学部の教育改革の特徴

#### 医学科と保健学科による二学科制の構築

本学部では平成 15 年 4 月に教員・研究組織として医学薬学研究部を、大学院教育組織として医学教育部を設置し、医学部医学科は学部教育を専務とする部局として改組し、教育体制の充実を図った。更に、平成 15 年 10 月に医療技術短期大学部と教育学部特別教科（看護）とを統合し、医学部内に保健学科を設置した。

#### 学問体系の重視とリサーチマインドの醸成を目指した医師教育

医学科は、明治 29 年設立の私立熊本医学校以来 110 年以上の医学教育の伝統と実績を踏まえ、各教科目の学問体系を重視した教育を実施するとともに、最新の医学知識を教授することにより、優れたリサーチマインドを有する臨床医及び医学研究者の育成に努めている。

#### 医学教育モデル・コア・カリキュラムへの準拠等のカリキュラム改革

医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムの整備、生命倫理学分野の創設による医療倫理教育の強化、及び医療情報管理教育の充実を図った。

#### 学生の自主性を涵養する授業形態の工夫

両学科とも、双方向性学習や PBL 教育を推進するとともに、体験型学習を充実させ、学生の自主性を涵養する授業形態を取り入れた。

#### 地域医療の中核を担う専門医療人の育成

地域住民や地域の医療機関の期待に応えるため、地域医療教育や地域体験型教育を導入し、地域医療に関心を持ち、その中核を担う専門医療人を育成する体制を整備した。

#### 多様な資格・免許取得に対応したカリキュラム構築

医学科の医師育成に加え、保健学科では看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の養成、及び高等学校教諭一種免許（看護）取得のための履修コースを設置し、多様な資格・免許取得に対応したカリキュラムを構築した。

#### 進学意欲に対応した大学院課程の設置

医学科における大学院博士課程（医学教育部）に加え、保健学科学生の進学意欲に応えるため、平成 20 年度から保健学教育部（大学院修士課程）を設置した。

### [ 想定する関係者とその期待 ]

以上の目的・特徴に照らして、医学部では、在学生・受験生及びその家族、卒業生、卒業生を雇用する医療機関関係者、ならびに地域医療の恩恵を受ける患者及びその家族、健康増進を願う地域住民等を関係者として想定している。医学部では、これらの関係者の期待に応えるべく、優れた医師、医療従事者、ならびに医学研究者の育成を目指している。

## 分析項目ごとの水準の判断

## 分析項目 教育の実施体制

## (1) 観点ごとの分析

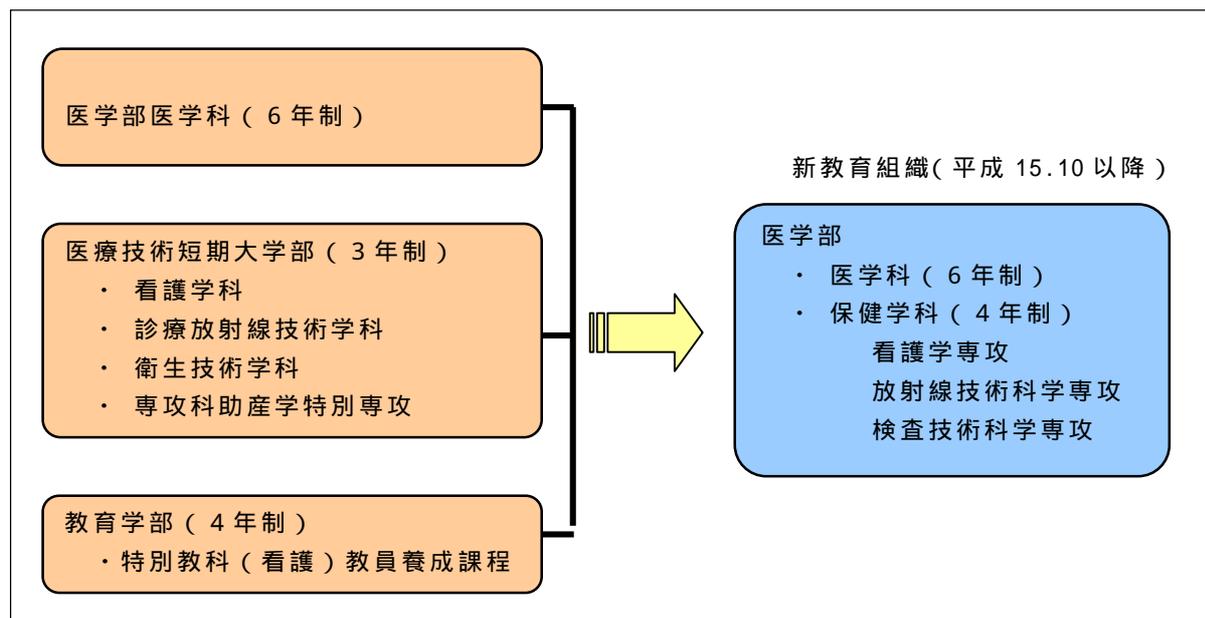
## 観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

本学部では平成 15 年 4 月に教員・研究組織として医学薬学研究部を、大学院教育組織として医学教育部を設置し、**医学部医学科は学部教育を専務とする部局として改組し、教育体制の充実を図った。**これに伴い、医学科の教員は医学薬学研究部に所属しながら、学部教育を兼務することになった。平成 15 年 10 月には**医療技術短期大学部と教育学部特別教科（看護）を統合して保健学科を新設し、**本学部は医学科と保健学科の二学科制となった（資料 1 - 1 - A）。

本学部では学科・専攻別に教育目的を掲げ、多様な資格・免許の取得に対応している（資料 1 - 1 - B、C）。保健学科における高等学校教諭一種免許（看護学）取得のための履修コースは国立大学法人の中でも 2 校にしかなく、特色ある教育課程である。学科別の学生収容定員の充足率は常に 100% を満たしており（資料 1 - 1 - D）、専任教員数は、医学科では学生一人当たり 3.1 人、保健学科では、学生一人当たり 9.8 人が確保され、**高水準の少人数教育を可能とする体制**にある（資料 1 - 1 - E）。

## 資料 1 - 1 - A 医学部教育組織の発展的改組



出典：平成 15 年度医学部改組計画を基に作成

## 資料 1 - 1 - B 医学科の教育目的及び取得可能な資格・免許

専攻	教育目的	取得可能な資格・免許
医学専攻	医学及び関連領域における社会的な使命を強い倫理観をもって達成するために必要な科学的で独創性に富む思考力と人間性とを涵養させつつ、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽を積むことのできる人材を育成することを目的とする。	医師

出典：平成 19 年度学生便覧（医学部医学科）から抜粋

## 資料 1 - 1 - C 保健学科の教育目的及び取得可能な資格・免許

専攻	教育目的	取得可能な資格・免許
看護学専攻	看護師、保健師、助産師ならびに高等学校教諭一種（看護）の養成を目的とし、チーム医療・地域に密着した看護活動が出来る人材の育成	看護師、保健師、助産師 高等学校教諭一種免許（看護）*
放射線技術科学専攻	放射線等を利用して診療に必要な医療画像を提供するだけでなく、将来の研究者や教育者となる診療放射線技師の育成	診療放射線技師
検査技術科学専攻	診断・治療や健康状態の把握に必要な検査を行う臨床検査技師、ならびに将来の研究者や教育者となりうる医療人の育成	臨床検査技師

\*看護学専攻の看護師、保健師は必修の履修コース、助産師と教諭免許は選択履修コース

出典：平成 19 年度学生便覧（医学部保健学科）から抜粋

## 資料 1 - 1 - D 医学部の学生収容定員、現員並びに定員充足率（平成 19.5.1 現在）

学科名	平成 16 年			平成 17 年			平成 18 年			平成 19 年		
	収容定員	現員	充足率(%)	収容定員	現員	充足率(%)	収容定員	現員	充足率(%)	収容定員	現員	充足率(%)
医学科	600	621	104	600	628	105	600	628	105	600	617	103
保健学科	144	144	100	288	289	100	432	451	104	576	616	107
計	744	765	103	888	917	103	1032	1079	105	1176	1233	105

保健学科では学年進行に伴い収容定員が増員され、平成 19 年に完成年度を迎えた。

出典：全学保有データを基に作成

## 資料 1 - 1 - E 医学部における専任教員の配置状況（平成 19.5.1 現在）

学部	学科・専攻	必要専任教員数 (人以上)	専任教員数(人)						学生数	教員一人当たりの 教員数
			教授	准教授	講師	助教	助手	合計		
医学部	医学科	140	52	31	45	73	0	201	617	3.1
	保健学科	28	28	12	5	18	1	64	616	9.8
	合計	168	80	43	50	91	1	265	1,233	4.7

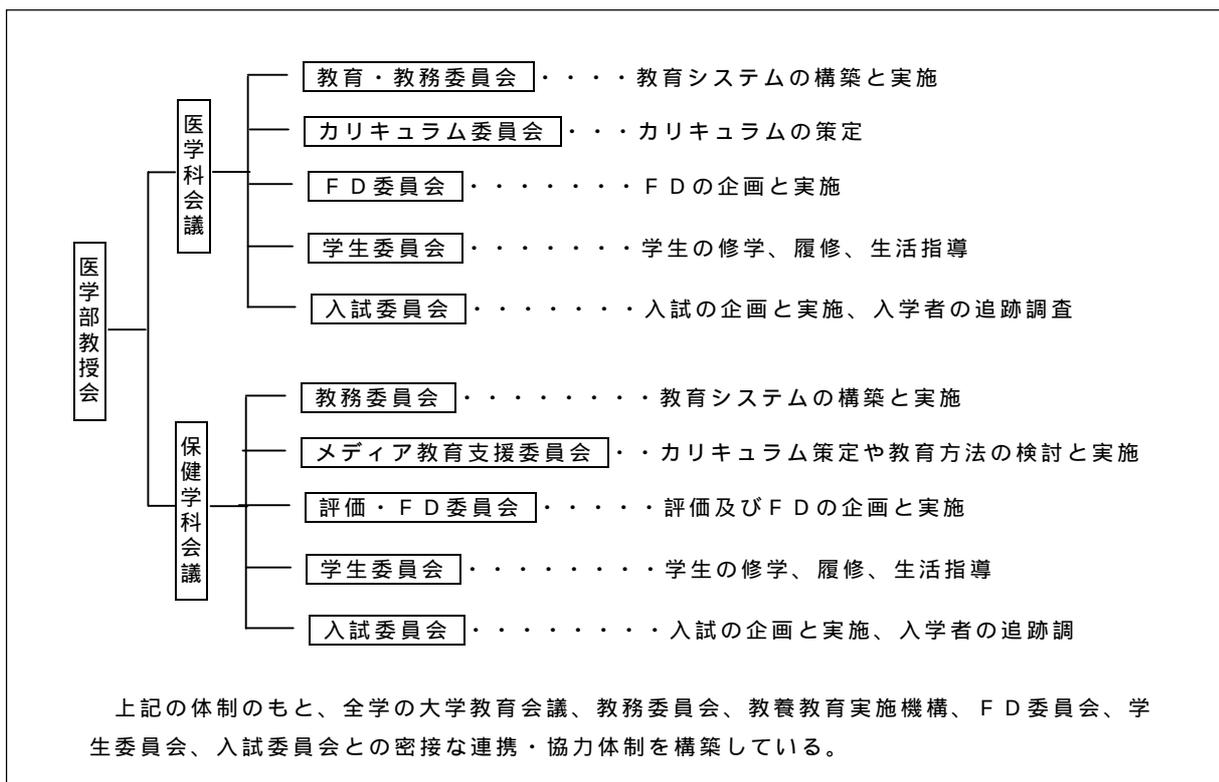
出典：全学保有データを基に作成

## 観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

本学部では、教学に関する各種委員会（資料 1 - 2 - A）を設置するとともに、学生による「授業改善のためのアンケート」をはじめとする種々の取組みを実施し、教育内容や教育方法が改善された（資料 1 - 2 - B）。FD 活動として、医学科では、毎年 1 泊 2 日の日程で教員と学生代表の共同参加による「医学教育 FD ワークショップ」（資料 1 - 2 - C）を実施するとともに医学部附属病院では年 2 回の FD を開催している（資料 1 - 2 - D）。保健学科では年に 1 - 2 回の FD が開催され、学年進行に従って 4 年制教育に対応したカリキュラム改革を年度毎に実施し、高水準の教育制度を構築した（資料 1 - 2 - B）。教養教育に関しては全学 FD を積極的に活用している（資料 1 - 2 - E）。

資料 1 - 2 - A 医学部における教育上の課題を扱う体制



出典：医学部各種委員会規則を基に作成

資料 1 - 2 - B 教育改善のための主な取組みと改善の状況（次頁に続く）

教育改善のための主な取組		改善の状況
全学的取組	学生アンケートの実施による教育内容、教育方法の改善	学生による「授業改善のためのアンケート」を実施し、学生の意見を取り入れて教育内容や教育方法が改善された。
	学務情報システム(SOSEKI)、遠隔学習支援・指導システム(Web CT)等の活用	本学固有の学務情報システム(SOSEKI)、遠隔学習支援・指導システム(Web CT)等を活用した優れた授業を紹介する Kumamoto University Teaching On-line (教育方法改善ハンドブック)等により、教授法の改善が図られた。
	特色 GP「IT環境を用いた自立学習支援システム」の実施	学内 LAN、無線 LAN、学務情報システム(SOSEKI)、遠隔学習支援・指導システム(Web CT)等を活用した自立学習支援体制が構築できた。
	特色 GP「学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育」の実施	情報基礎 A、B を必修科目とし、情報処理教育の改善・向上を図ると同時に、e-ラーニング推進機構を発足させた。
医学科	医学科カリキュラム委員会による新規カリキュラムの検討	医学教育モデルコア・カリキュラムに準拠した新しいカリキュラムが構築され、導入された。その結果、新カリキュラムによる最初の卒業生である平成 19 年度卒業生の国家試験合格率(98.9%)が飛躍的に上昇した。さらに、新しい授業形態の教育方法(双方向教育、PBL、体験学習など)が導入された。
	学生参加型医学教育 FD ワークショップの実施	学生の意見を取り入れた新規カリキュラムが構築されるとともに、学生参加型授業の充実が図られた。
	附属病院教員による FD の実施	PBL に基づいた臨床実習改革が実施され、学生の学習意欲が高まった。

出典：平成 19 年度授業計画書(医学部医学科)、FD ワークショップ報告書を基に作成

## 資料 1 - 2 - B ( 続き ) 教育改善のための主な取組みと改善の状況

教育改善のための主な取組		改善の状況
保健学科	保健学科教務委員会による 4 年制に対応した新規カリキュラムの検討	平成 15 年 10 月の保健学科設置に伴って、医療技術短期大学時代の 3 年制から 4 年制教育に移行し、高水準の教育体制を構築した。また、教育学部特別教科（看護）教員養成課程を合併改組することで、全国的にも特異な高等学校教諭第一種免許（看護）が取得可能な履修コースを設置した。
	保健学科における教務委員会、評価・FD 委員会、メディア教育支援委員会による活動	教務委員会活動、FD 活動、授業評価結果の教育改善への活用、メディアを応用した教育に関する啓発・支援等を行い、教育に対する意識改革、教育方法や内容の改善、並びに教育の質の向上を図った。

出典：平成 19 年度授業計画書（医学部保健学科）、FD ワークショップ報告書を基に作成

## 資料 1 - 2 - C 医学科「医学教育 FD ワークショップ」への教員・学生参加者数

参加者数	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
教員	34	46	33	40
学生	4	10	10	12
計	38	56	43	52

出典：第 5～8 回（平成 16 年度～平成 19 年度）医学教育ワークショップ報告書からデータを抽出

## 資料 1 - 2 - D 本学部における FD の開催回数・テーマ

平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
4 回 ( 医 3、保 1 )	4 回 ( 医 3、保 1 )	5 回 ( 医 3、保 2 )	5 回 ( 医 3、保 2 )
主なテーマ（平成 19 年度）			
平成 19 年度の FD は、医学科では「医学教育ワークショップ」を開催し、チュートリアル教育の方法論の検討とシナリオ作成を教員と学生の参加のもとで実施した。保健学科では、「今さら聞けないパソコンの利用法（中上級編）」、「講義資料の WebCT での活用」に関する FD を実施した。			

出典：FD ワークショップ報告書からデータを抽出

## 資料 1 - 2 - E 全学 FD の実施状況

年度	回数	参加者数	テーマ
平成 16 年度	1	80	教養教育に関する FD 研究会 2004
平成 17 年度	3	172	「学生視点での 21 世紀型大学教育への試み」 「教養・学部一貫の視点での学士課程教育の新展開」 「教育の成果検証システムに関する取り組み」
平成 18 年度	3	198	「大学改革と学部教育の再構築」 「大学改革における評価を考える」 「学生の学びを深めるための教科集団の取り組み」
平成 19 年度	4	87	「フィンランドの高等教育の動向」 高等教育の国際化 ：－ 現在のトレンドと新たなチャレンジ グローバルな視点から － 「大学教育はグローバル化する知識社会に適應できるか？」 「PBL の国際的動向 国際 PBL シンポジウム 2007 報告」

出典：全学保有データを基に作成

**(2) 分析項目の水準及びその判断理由****(水準) 期待される水準を大きく上回る****(判断理由)**

平成 15 年 4 月の改組に伴い、「**医学部医学科**」は学部教育を専務とする組織となり、学部教育の実施体制が強化された。保健学科は平成 15 年 10 月に新設され、従前の 3 年制から**4 年制教育に対応した大幅なカリキュラム改革**が実施され、高水準の教育体制が整備された。また、全国的にも特異な高等学校教諭一種免許(看護)取得のための履修コース等、**社会の要請に対応した多様な履修コースが整備されている。**

教育内容や教育方法の改善のために、「**授業改善のための学生アンケート**」や種々の FD 活動が実施されている。医学科における**学生参加型の「医学教育 FD ワークショップ**」は、カリキュラム改革や教育改善に大きく貢献した。

以上から、本学部の組織編成状況や教育内容・教育方法の改善に向けての取組みは極めて良好で、関係者の期待を大きく上回ると判断される。

## 分析項目 教育内容

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 教育課程の編成

## (観点に係る状況)

医学部では、1年次から教養教育と専門科目の「くさび形カリキュラム」を編成し、医学科6年間、保健学科4年間の一貫教育を実施している(資料2-1-A)。

教養教育は、教養教育実施機構を中心とする全学協力実施体制のもとで8つの教育目標を定め(資料2-1-B)、全教員の参加のもとで、7つの教科単位(資料2-1-C)に分けてカリキュラムを編成し、医学部では両学科とも34単位を設定している(資料2-1-D)。

医学科の専門教育は、専門基礎科目と専門科目(基礎医学科目及び臨床医学科目)より構築され、専門科目は全て必修科目である(資料2-1-E)。基礎医学科目では各教科目の学問体系を重視した科目編成を行っている。臨床医学科目は実習を中心に編成され、4年次後期から6年次前期に実践的な専門臨床教育を実施している。平成17年3月には生命倫理学分野を新設し、医療倫理教育に力を入れると共に、医療情報経営企画部による医療情報管理教育を導入するなど、特色ある教育課程を構築している(資料2-1-F)。

保健学科の専門教育は、専門基礎科目、必修専門科目及び選択専門科目よりなり、各専攻の学問分野・職業分野の特徴を踏まえた教育課程の編成がなされている(資料2-1-G)。さらに、助産師国家試験受験及び高等学校教諭一種免許状(看護)認定のための履修コースを用意し、特色ある教育課程を構築している(資料2-1-H)。

## 資料2-1-A 教育課程の編成と卒業要件

## (教育課程の編成)

第4条 本学部は、本学部学生(以下「学生」という)に対し、第1学年次から医学科にあっては6年間、保健学科にあっては4年間の一貫教育を行い、適切な教育課程を編成するものとする。

## (専門教育の授業科目の履修方法等)

第7条 医学科の専門教育の授業科目は、専門基礎科目並びに基礎医学科目及び臨床医学科目からなる専門科目とし、これらの授業科目を必修科目及び選択科目に区分する。

2 保健学科の専門教育の授業科目は、専門基礎科目及び専門科目とし、これらの授業科目を必修科目及び選択科目に区分する。

3 授業時間割及び授業担当教員は、学期の始めに公示する。

4 授業は、講義、実験、実習及び演習とする。

5 教育上必要があるときは、本学部教授会(以下「教授会」という。)の議を経て、授業科目及び単位数を変更することができる。

## (卒業の要件)

第13条 医学科に6年以上在学し、この規則の定めるところにより規定の単位を修得した者は、卒業と認定する。

2 保健学科に4年間以上在学し、この規則の定めるところにより規定の単位を修得した者は、卒業と認定する。

## (卒業に必要な最低単位数)

学科	専攻	教養教育	専門基礎科目	専門科目	総単位数
医学科	医学専攻	34	28.5	154	216.5
保健学科	看護学専攻	34	21	69	124
	放射線技術科学専攻	34	32	58	124
	検査技術科学専攻	34	23	67	124

出典：平成19年度学生便覧(医学科・保健学科)より抜粋

## 資料 2 - 1 - B 教養教育の教育目標

A 現代社会を理解するために必要な、社会・文化・人間に関する基本的知識の習得を図る。
B 現代社会を理解するために必要な、現代科学に関する基本的知識の習得を図る。
C 学術研究の一端に触れ、学問に対する興味や関心を高める。
D 自分自身で問題を発見し、それを発展させる能力の育成を図る。
E 自己を見つめ直し、他人の考えや異なる価値観を理解する能力を育成する。
F 地域や社会に対する関心を高め、幅広い視野を持つよう促す。
G 国際社会に積極的に参加できる外国語運用能力と異文化包容力を育成する。
H 日常的に使い、引き続き自分で発展させることができる情報処理能力を育成する。

出典：「21世紀熊本大学教養教育プログラム」から抜粋

## 資料 2 - 1 - C 「21世紀熊本大学教養教育プログラム」における教科単位とその目標

教科単位	教科単位の目標	教育目標との関係
基礎セミナー	転換教育：自立学習への円滑な導入を図り、科学的な思考力や適切な表現力の育成を目標とする。	主に C と D。 E、A、B にも。
情報科目	情報化社会にあつて主体的に問題意識をもって情報環境に対処しうる能力の育成を目標とする。	H のための科目。
外国語科目	グローバル化する世界にあつて自立・自律する学生の語学力、国際会話力の育成を目標とする。	主に G。 E、F にも対応。
主題科目 I	現代社会を知る科目：人の命、人と自然、人と社会の諸科学に係わる基礎的知識の修得を目標とする。	主に A と B に対応。 F、G、H にも。
主題科目 II	知的社会に踏み込む科目：学問の最前線などを広く提示し、学問の面白さ等の理解を目標とする。	主に C と D に対応。 F、G、H にも。
学際科目	学際的課題の教育を通じて異分野融合の必要性和重要性を理解できる能力の育成を目標とする。	主に E と F に対応。 G にも。
開放科目	教養教育に相応しい専門教育科目：学生がより深い教養を身につけることを目標とする。	A ~ G に対応。

出典：教養教育実施機構「組織評価自己報告書」(平成 19 年度)から抜粋

## 資料 2 - 1 - D 教養教育の区分と単位数 (両学科共通)

区 分	単位数	必修	選択	備 考
基礎セミナー	2			外国語科目は、既修外国語 6 又は 8 単位、 初修外国語 4 又は 2 単位を修得
情報科目	2			
外国語科目 (必修外国語科目)	1 0			
外国語科目 (自由選択外国語科目)				主題科目 及び主題科目 については、そ れぞれ 4 単位以上必ず修得
主題科目	2 0			
主題科目				
学際科目				
開放科目				
計	3 4			

出典：平成 19 年度学生便覧 (医学科・保健学科) より抜粋

## 資料 2 - 1 - E 医学科専門教育の授業科目と単位数

## 1. 専門基礎科目

区分	授 業 科 目	単 位 数	必 修	選 択	備 考
専 門 基 礎 科 目	線形代数Ⅰ	2			
	微分積分Ⅰ	2			
	統計学Ⅰ	2			
	物理学Ⅰ	2			
	化学Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ	2			いずれか1科目を選択必修
	微分積分Ⅱ	2			
	統計学Ⅱ	2			
	物理学Ⅱ	2			いずれか1科目を選択必修
	化学Ⅱ	2			
専 門 基 礎 科 目	医学情報処理	2			
	早期社会体験学習	1.5			
	分子細胞生物学	2			
	医学概論	2			
	医用電子・放射線基礎医学	2			
	医療と社会Ⅰ	1			
	医療と社会Ⅱ	1			
	医療と情報	1			
合 計		28.5			

## 2. 専門科目

区分	学 科 目	授 業 科 目	単 位 数	必 修		
専 門 科 目	基 礎 医 学 科 目	分子細胞生物学	分子遺伝学(講義・実習)	1.5		
		生体構造学	人体発生・肉眼解剖学(講義・実習)	7		
			神経解剖学(講義・実習)	2		
			組織学(講義・実習)	2.5		
			生体機能学	生化学Ⅰ(講義・実習)	1.5	
		生体機能学	生化学Ⅱ(講義・実習)	1.5		
			生理学Ⅰ(講義・実習)	3		
			生理学Ⅱ(講義・実習)	3		
			感染免疫学	免疫学(講義・実習)	2	
		感染免疫学	感染防御学(講義・実習)	2.5		
			微生物学(講義・実習)	3		
			病態学	腫瘍医学(寄生虫病学を含む)(講義・実習)	3	
				薬理学(講義・実習)	4.5	
		病理学Ⅰ(講義・実習)		2		
		病理学Ⅱ(講義・実習)		3.5		
		環境社会医学	衛生・公衆衛生学(講義・実習)	6		
			法医学(講義・実習)	3		
			生命倫理学(講義)	2		
小 計			53.5			

区分	学科目	授業科目	単位数	必修	
専 門 科 目	臨 床 医 学 科 目	内科学	呼吸器内科学	2.5	
			消化器内科学	2.5	
			血液内科学	2.5	
			膠原病内科学	1	
			腎臓内科学	2.5	
			代謝・内分泌内科学	3.5	
			循環器内科学	2.5	
		外科学	心臓血管外科学	1	
			呼吸器外科学	1	
			消化器外科学	3.5	
			乳腺・内分泌外科学	1	
			泌尿器科学	1	
			婦人科学	1	
		成育医学	小児科学	2.5	
	小児外科学		1		
	産科学		1		
	感覚・運動科学	皮膚科学	2.5		
		整形外科科学	2.5		
		歯科口腔外科学	1		
		耳鼻咽喉科学	2.5		
		眼科学	1		
	脳・神経・精神科学	小児発達学 (小児発達社会学を含む。)	2.5		
		神経内科学	2.5		
		麻酔科学	2.5		
		神経精神医学	2.5		
		脳神経外科学	2.5		
	総合医学	総合診療学	1		
		画像診断・放射線腫瘍学	1		
		臨床検査医学	2		
		救急医学	1		
		臨床腫瘍学	1		
		臨床実習入門	4		
		チュートリアル実習 (総合講義を含む。)	2.5		
臨床実習		24			
特別臨床実習		5			
基礎演習		5			
臨床形態診断学		1			
漢方医学	1				
小計			100.5		
合計			154		

## 資料 2 - 1 - F 医学科における教育課程編成上の特徴と専門教育の特色

教育課程編成上の特徴	専門教育の特色
1) 教養教育と専門教育のくさび型教育を実施し、一年次から専門科目を導入して学生の医学学習の意欲を高める試みをしている。 2) 学問体系に沿った基礎医学科目の編成を行っている。 3) 臓器別の臨床教育・実習を実施している。 4) 1、3、4、5、6年次に継続的に生命倫理教育を行っている。 5) 医療情報管理について実践的教育を実施している。	1) 医学教育コア・カリキュラムの内容に沿いつつも、各教員が学問体系に基づいた個性的な教育を行っている。 2) 新入生に対して早期社会体験学習を実施し、地域医療や老人医療を体感させている。 3) 基礎医学に対する学生の興味を高めるため、4週間にわたり希望の基礎医学教室に所属し医学研究に従事する「基礎演習」を実施している。 4) 架空の症例(シナリオ)を利用してPBLに基づいたチュートリアル実習を実施している。 5) 患者との接し方や臨床的手技の基本を学ぶため臨床実習入門コースを導入し、臨床実習の効果を高めている。 6) 臨床実習の後半に希望の臨床科(外部病院を含む)で実習を行う特別臨床実習を導入し、プロジェクト・ベースト・ラーニングを実施している。

出典：平成 19 年度授業計画書(医学科)に基づいて作成

## 資料 2 - 1 - G 保健学科における専門科目の構成

科目名	各科目の目標	必修・選択	特徴
専門基礎科目	専門科目を学ぶ上で必要な基礎知識として生体の構造と機能、疾病と医学・医療、保健・福祉・環境について理解する。	必修または選択	3専攻共通科目と各専攻独自科目で構成されている。
必修専門科目	各専攻の目的とする医療人に必要な知識と技術、態度を修得する。	必修	人間の尊厳を尊重した倫理的態度を軸に据え、専門領域の理論と実践の統合を図り、チーム医療に貢献するために必要な科目で構成されている。
選択専門科目	各専攻の目的とする医療人として必要な知識と技術、態度を深め、視野を広げる。	選択	各専攻の視野を広げる科目で構成されている。
必修選択専門科目	・助産師に必要な知識と技術、態度を修得する。 ・高等学校教諭一種免許状(看護)の単位が認定されるために知識と技術、態度を修得する。	必修選択	・助産師国家試験受験資格要件を満たすための科目で構成されている。 ・高等学校教諭一種免許状(看護)の単位認定のための科目で構成されている。

出典：平成 19 年度授業計画書(保健学科)に基づいて作成

## 資料 2 - 1 - H 保健学科各専攻の教育課程編成上の特徴と専門教育の特色(次頁に続く)

専攻	教育課程編成上の特徴	専門教育の特色
看護学専攻	1) 専門科目の基礎となる教養教育科目を重視し、教養教育科目 27%、専門基礎科目 17%、専門科目 56%であり、2 : 1 : 4 の割合で構成している。 2) 教養教育科目と専門基礎科目、専門科目をくさび形に配置している。 3) 国際的視野で看護活動ができる素地を養うため、「国際医療・保健活動論」「国際保健学」の科目を配置している。	1) 専門科目必修 66 単位のうち、約 1/3 の 23 単位を臨地実習の科目で構成し、看護実践能力の育成に重きを置く、有能な人材を育成する教育課程である。 2) 看護師と保健師は必修科目を主軸構成にし、助産師を目指す学生のために選択科目として学べる教育課程としている。 3) 教育者【高等学校教諭一種免許状(看護)】を希望する学生のために教育学部と連携協力体制のもと、教職科目が履修できる教育課程としている。

放射線技術科学専攻	<p>1) 専門科目の基礎となる教養教育科目を重視し、教養教育科目 27%、専門基礎科目 26%、専門科目 47%であり、1 : 1 : 2 の割合で構成している。</p> <p>2) 教養教育科目と専門基礎科目、専門科目をくさび形に配置している。</p> <p>3) 診療放射線技師が対象への関わりを深めて視野を広げられるように「看護学概論」を必修科目に設定している。</p>	<p>1) 最新の明解な放射線撮影技術と放射線関連の画像検査法のもと適確な画像撮影と画像診断ができる素地を養う教育課程としている。</p> <p>2) 特別科目として選択科目に「放射線技術科学特論」を開講し、専門分野にける最新の話題を提供できる教育課程としている。</p>
-----------	---	--

## 資料 2 - 1 - H ( 続き ) 保健学科各専攻の教育課程編成上の特徴と専門教育の特色

検査技術科学専攻	<p>1) 専門科目の基礎となる教養教育科目を重視し、教養教育科目 27%、専門基礎科目 19%、専門科目 54%であり、2 : 1.5 : 4 の割合で構成している。</p> <p>2) 教養教育科目と専門基礎科目、専門科目をくさび形に配置している。</p> <p>3) 病理から血液、臨床化学、遺伝子、免疫、輸血、病原微生物、生理機能、画像検査、検査機器管理まで広く検査に関する先端技術に関する基礎理論と技術が学べる科目を配置している。</p>	<p>1) 生命現象の生化学的、生理学的、解剖学的、細胞・組織学的な側面からデータを解析し、医用情報処理を行い、正確なデータを迅速に提供できる人材を育成する教育課程としている。</p> <p>2) 遺伝子検査や感染症などに必要な高度な検査を駆使して対応できる教育課程としている。</p> <p>2) 将来は、新しい検査技術方法の開発、検査機器の開発に挑戦し、貢献できる素地を養う教育課程としている。</p>
----------	--	---

出典：平成 19 年度授業計画書（保健学科）に基づいて作成

## 観点 学生や社会からの要請への対応

(観点到に係る状況)

「授業改善のためのアンケート」等の学生からの要望に基づき、1) 医学科における医学教育コア・カリキュラムにおける講義項目の重複の整理とカリキュラムの改善、2) 双方向性授業の推進（授業内での質問の活性化、Q&A の作成、理解度の評価のための小試験など）、3) 参考資料やハンドアウト等の整備充実や Web 公開、4) 授業科目ごとの問題点への改善策の策定などを実施した（資料 2 - 2 - A）。

社会からの要請に応えるため、**医療倫理教育や医療情報管理教育の充実**を図った。地域医療に対する学生の関心を高めるため、医学科新入生に対する**早期社会体験学習**や、保健学科学生に対する**臨地体験実習**を実施している（資料 2 - 2 - A）。また、地域住民からの要請に応じて、研究生、科目等履修生等を受け入れている（資料 2 - 2 - B、C）。

## 資料 2 - 2 - A 学生のニーズ、社会からの要請に応じた教育課程の編成

区分	教育課程上の取組	概要	
教養教育	転換教育の充実	少人数の基礎セミナーを多数提供	
	情報教育の充実	「情報基礎 A」及び「情報基礎 B」の必修化	
	TOEIC-IP 受験の義務化（保健学科）	TOEIC-IP の結果を英語の成績評価の 50%に利用	
	多様な学際科目の提供	「女性と職業」、「ジェンダーで読む現代」、「現代社会とボランティア」、「映画を通して考える生命倫理」、「災害 君ならどう対応する」等の多様な内容の科目を提供し、学際的な視野を広げ、多様な価値観を形成	
専門教育	医学科	体験型学習の充実	早期社会体験学習、チュートリアル実習、特別臨床実習の実施
		医療倫理教育の充実	生命倫理学分野の新設と医療倫理教育の充実
		医療情報教育の充実	附属病院医療情報経営企画部による医療情報管理教育の導入
		地域医療への関心醸成	地域医療に関する講義の導入（医療と社会）、早期社会体験学習

保健学科	リサーチマインドの醸成	関連研究センター(発生医学研究センター、エイズ学研究センター、生命資源研究支援センター等)による最先端の生命科学教育の実施 先端医療技術の臨床教育への導入
	情報教育の充実	電子カルテの理解、医療情報リテラシー教育
	実験・実習科目の充実	地域や実践現場での学習
	チーム医療演習	チーム医療の重要性を教育
	編入生への配慮	編入生 32 名(18 年度入学 14 名、19 年度入学 18 名)に対する適切な既習単位認定と個別指導
	社会人学生への配慮	社会人学生に対する対し、実習科目運用上の配慮
	協定校との学生交流	平成 19 年度から協定校との間で学生交流を実施
	キャリア支援の充実	キャリア形成を意図した講演会を開催し、職業意識を涵養
個人情報保護法の遵守指導	進級ガイダンスにおいて、個人情報保護に関する特別講義の開催	

出典：平成 19 年度授業計画書（教養教育、医学科、保健学科）に基づいて作成

資料 2 - 2 - B 医学科における科目等履修生等の在学状況（各年度 5 月 1 日現在）

	種類	平成 16 年度 (人)	平成 17 年度 (人)	平成 18 年度 (人)	平成 19 年度 (人)
医学科	研究生	3 (2)	1 (0)	1 (1)	1 (1)
	科目等履修生	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
	特別聴講学生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	全体	4 (2)	2 (0)	1 (1)	1 (1)

\* ( ) は留学生数で内数。

出典：全学保有データを基に作成

資料 2 - 2 - C 保健学科における科目等履修生等の在学状況（各年度 5 月 1 日現在）

学科	種類	平成 16 年度 (人)	平成 17 年度 (人)	平成 18 年度 (人)	平成 19 年度 (人)
保健学科	研究生	0 (2)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
	科目等履修生	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
	特別聴講学生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	全体	0 (2)	2 (0)	2 (0)	0 (0)

\* ( ) は留学生数で内数。

出典：全学保有データを基に作成

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

1 年次から教養科目と専門科目の「くさび形カリキュラム」を編成し、両者の有機的連携を図った。医学科専門教育では医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムを完成させた。保健学科では、平成 15 年 10 月の保健学科設置に伴い、3 専攻による 4 年制の教育課程が編成され、高水準の保健学教育が実施されている。両学科とも、学生による「授業改善のためのアンケート」等を通して学生の意見を積極的に取り入れるとともに、医療倫理教育ならびに医療情報管理教育に力を入れ、社会の要請にも配慮したカリキュラムが構築されている。

以上の観点から医学部における両学科の取組は、関係者の期待を大きく上回ると判断される。

## 分析項目 教育方法

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

教養教育では、多彩な領域の学問に対して関心を高めるため、多様な授業形態を組み合わせている(資料3-1-A、B)。

専門教育では、医学科では、体験型学習として、地域医療機関や介護老人保健施設等に終日滞在して実施される**早期社会体験学習**(1年次)、基礎研究室で先端医学研究を体験する**基礎演習**(3年次)、附属病院における臓器別診療体制を基盤とした**専門的臨床教育・実習**(5年次通年)を実施している。臨床実習の前後には、**臨床実習入門コース(クリニカルナビゲーション)**(4年次)と、希望する臨床科(外部病院を含む)において高度の臨床体験を行う**特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)**(5年次後期～6年次前期)を配置し、実践的な医学教育を実施している。(資料3-1-C、D)。

保健学科では、**専攻の特性に応じた実習・演習を適切に配置**するとともに、臨地実習前のコミュニケーション能力の養成のため、保育園や大学病院での任意実習の機会を準備し、正規実習の授業目標の達成を支援している(資料3-1-C、D)。

両学科とも、全授業科目について履修に必要な基本情報が記載されたシラバスを作成するとともに(資料3-1-E)、**本学固有の学内LANと学務情報システム(SOSEKI)によるペーパーレスの履修登録システム**を整備している。

## 資料3-1-A 教養教育の授業形態(平成19年度実績)

授業形態	受講人数	教養教育科目 [両学科共通]	備考
講義	1クラス50人以上	主題科目、主題科目、学際科目、 医学英語D(1クラス50～60名)	授業時間内及びメールでの質問に対応している。
	1クラス50人未満	既習外国語科目 (A-1科目、A-2科目、B-1科目、B-2科目、 C-1科目、C-2科目、D-1科目、D-2科目)	・1グループ20名の少人数授業。 ・D-1科目とD-2科目は40名のクラス編成で講義を行っている。
セミナー	1クラス20人未満	基礎セミナー	99科目を開講し、新入生全員を対象として学部横断的授業を実施。1グループ3～20名未満の少人数で授業を行っている。

出典：平成19年度授業計画書(教養教育)に基づいて作成

## 資料3-1-B 教養教育における開講科目数

教科単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
基礎セミナー	103	101	99	99
情報科目	54	56	54	52
外国語科目	394	670	696	687
主題科目Ⅰ	124	186	152	137
主題科目Ⅱ	60	108	76	77
学際科目	42	65	57	56
開放科目	1	9	6	8
全体	776	1,195	1,140	1,116

出典：熊本大学学務情報システム(SOSEKI)を基に作成。

## 資料3-1-C 専門教育の授業形態と開講科目（平成19年度実績）

授業形態		受講人数	専門科目	備考
医 学 科	講義	1クラス 50人以上	分子遺伝学、人体発生・肉眼解剖学など基礎医学専門17科目、内科学、外科学など臨床医学専門29科目	・授業時間内やメールでの質問に応じている。
	演習	1グループ 1～5人	基礎演習	・学生の希望する基礎医学研究室で4週間にわたり、基礎医学研究に参加する ・小グループによる演習で、基礎医学研究への興味を育てる。
	実習	基礎医学は科目によって人数が異なる。 臨床実習は1グループ 3～4人	肉眼解剖実習など基礎医学系18科目（講義と連携して実施） チュートリアル実習 消化器内科学など29臨床科における臨床実習（各1週間単位）	・基礎医学科目は講義と連携して、実習を実施。 ・チュートリアル実習は架空の症例についてグループ学習と全体討論を実施。 ・臨床実習は、3～4名単位で全ての臨床科をローテートする。
保 健 学 科	講義	1クラス 50人以上	看護学原論、人間関係援助論など、看護情報学を除く看護学専攻が開講している開講科目の全ての科目（78科目）	・授業時間内やメールでの質問に応じている。
		1クラス 50人未満	看護情報学 放射線技術科学専攻（66科目）及び検査技術科学専攻（62科目）が開講している講義科目の全ての科目（計128科目）	・中期目標・中期計画に多様な教育方法と少人数による課題解決型学習を掲げており、これを実現する科目である。
	セミナー	1グループ3～20名	リサーチトレーニング	・中期目標・中期計画に多様な教育方法と少人数による課題解決型学習を掲げており、これを実現する科目である。
	演習	1グループ3～5人の小グループ	チーム医療演習、基礎看護方法論、放射線物理学（講義・演習）、医療データ処理学（講義・演習）、医用画像評価学（講義・演習）など保健学科系20科目	・中期目標・中期計画に多様な教育方法と少人数による課題解決型学習を掲げており、これを実現する科目である。 ・個人の技術獲得に着目して個人指導している
	実験	1グループ3～4人の小グループ	放射化学・管理学実験、放射線計測学実験、画像機器工学実験	・中期目標・中期計画に多様な教育方法と少人数による課題解決型学習を掲げており、これを実現する科目である。
	実習	1病棟または1施設2～5名の少人数による実習	基礎看護学実習、臨床化学実習、放射線同位元素検査学実習など保健学科37実習科目	・中期目標・中期計画に多様な教育方法と少人数による課題解決型学習を掲げており、これを実現する科目である。 ・実践現場の指導体制の協力のもと個人の学びを支援している。

出典：平成19年度授業計画書（医学科、保健学科）に基づいて作成

## 資料 3 - 1 - D 医学部における優れた学習指導法の工夫

	学習指導法	授業科目	授業内容
医 学 科	体験型授業	早期社会体験学習(1年生)	地域医療機関や介護老人保健施設、保健所等に終日滞在して医療現場に触れる。
		臨床実習入門コース(4年生)	臨床実習前の基本技術の習得
		臨床実習 29 科目(5年生)	小グループで全臨床科をローテート
		特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)(5-6年生)	希望する臨床科における高度の臨床体験
	PBL型授業	チュートリアル実習(4年生)	シナリオ(架空の症例)を与え、病態診断、治療方針などを討論する。
	情報教育室使用	情報基礎 A、B(1年生)	情報リテラシーの基礎を学ぶ
		医学情報処理(2年生)	医療情報の基礎知識の習得
臨床形態診断学(4年生)		デジタル画像診断	
情報セキュリティ教育	医療と情報(4年生)	医療情報管理	
保 健 学 科	実習発表型授業	基礎看護学実習 基礎看護学実習	臨地実習での学びをプレゼンテーションしグループ発表する
	先端科学特別講義	放射線技術科学特論	最新の学問に関する情報提供による学問への発展や興味を喚起する
	PBL型授業	看護診断学	事例のアセスメントを通して診断し、解決策立案、実践・評価までを学ぶ
		チーム医療演習	3専攻の学生の混合編成による少人数グループによる合同グループ学習
	体験型授業	看護学実習 11 科目	実際の患者を受け持ち、体験しながら学ぶとともに少人数での講義を受ける。
	情報教育室使用	情報基礎 A、B、看護情報学、電気工学演習、電子工学演習、物理学、医療情報システム論、異文化コミュニケーション(英語 D-2)、医用画像評価学、放射線治療機器工学、デジタル画像処理論、デジタル画像処理演習、医療データ処理学、医療情報処理学、医療情報管理学	・基礎的な情報リテラシーと専門領域に特化した情報リテラシーの体験学習 ・動画を取り入れた教材作成、電子カルテシミュレーション学習 ・医用画像の加工・処理、データ処理 ・情報の管理の学習
	対話・討論型授業	生命倫理学、看護学概論、看護学原論	予習復習ノートを活用した討議学習法、LTD学習法
	グループ面接授業	看護診断学	小グループと大グループによる討議、グループ面接指導
	ロールプレイング	基礎看護学方法論 I、II、III 基礎看護学方法論 基礎看護学方法論	ロールプレイングによる役割演技(患者・医師・看護者役割)
	情報セキュリティ教育	特別講義「個人情報保護法」	医療情報管理
模擬授業	看護科教育	臨床判断に繋がる模擬授業	

出典：平成 19 年度授業計画書(教養教育、医学科、保健学科)に基づいて作成

## 資料 3 - 1 - E シラバス共通記載項目

授業科目名	保健学科・看護学概論		英文標記	Introduction to Nursing Science	
時間割コード	90225		科目コード	4250112006	
開講年次	1年次	学期	前期	曜日・時間	火 1限
講義題目	看護学概論				
担当教員	森田敏子 蔦川忠久				
科目分類	専門基礎科目	選択 / 必修	必修	授業形態	講義・演習
単位数	1単位				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の定義、健康の概念、看護の対象、看護活動の場について理解する。</li> <li>2. 看護の役割と機能、看護実践と組織について理解する。</li> <li>3. 専門職としての倫理と法的責任について理解し、権利擁護について考える。</li> </ol>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の歴史の変遷(1)(森田)</li> <li>2. 看護の歴史の変遷(2)(森田)</li> <li>3. 看護の概念と定義(森田)</li> <li>4. 看護を必要とする人々：健康の概念、人間と環境(森田)</li> <li>5. 看護を必要とする人々：ライフスタイルと健康(森田)</li> <li>6. 看護を実施する人々：本人、家族、親戚、知人、看護職(森田)</li> <li>7. 看護を実施する人々：協働する保健医療福祉関係者(森田)</li> <li>8. 看護が行われる場：保健医療システムと活動の場(森田)</li> <li>9. 看護の機能と役割、看護技術の考え方、看護論と看護実践への活用(森田)</li> <li>10. 看護実践組織：在宅、保健。医療・福祉関係施設の看護実践、看護の組織と管理(森田)</li> <li>11. 専門職としての倫理と法的責任(専門職の定義、倫理と法的責任、医療事故)(蔦川)</li> <li>12. 患者の権利擁護：事例にみられるがんの告知(蔦川)</li> <li>13. 患者の権利擁護：がんを知る権利と告知のあるべき姿(蔦川)</li> <li>14. 看護教育制度、継続教育と看護研究、専門職としてのチャレンジ(森田)</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>				
キーワード	看護、ケア/ケアリング、人間、ライフサイクル、健康、環境、チーム医療、看護倫理、権利擁護				
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本看護協会監修：新版看護者の基本的責務(定義、概念、基本法、倫理)、日本看護協会出版会</li> <li>2. 氏家幸子：看護基礎論、医学書院</li> <li>3. ナイチンゲール、湯槇ます訳：看護覚え書、現代社</li> <li>4. ヘンダーソン、湯槇ます他訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会</li> </ol>				
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミルトン、メイヤロフ、田村真他訳：ケアの本質、ゆみる出版</li> <li>2. 草刈順子他編：2000年に看護を語る、日本看護協会出版会</li> <li>3. フライ、片田範子他訳：看護実践の倫理、日本看護協会出版会</li> </ol>				
評価方法・基準	<p>出席状況(10%)、授業態度・課題発表(10%)、レポート(20%)、テスト(60%)とし、総合的に評価する。各項目は60%以上を修得すること。</p> <p>学習態度は講義の最後に書いてもらい出席表によって評価する。</p>				
履修上の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：授業前に、テキストの該当部分を学習しておくこと。</li> <li>・復習：授業後に学習内容を振り返り、テキストの該当部分を精読すること。</li> <li>・発展：学習内容に関心を持ち、関連文献を読むようにすること。</li> <li>・学生向け看護専門雑誌の購読。</li> </ul>				
事前学習	テキストの精読、新聞・雑誌等の看護・医療に関する記事を読んでおく。				
事後学習	学習内容に関連ある書籍、雑誌等を読み、看護について考えを深めること。				

出典：平成19年度授業計画書(保健学科)に基づいて作成

## 観点 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

本学部では、学生の主体的な学習を促すため、全学で整備されている遠隔学習支援・指導システム（WebCT）、英語学習のためのCALLシステム、学務情報システム（SOSEKI）ならびにe-learning等の積極的活用を促すとともに、種々の履修指導を行っている（資料3-2-A）。

医学科では、与えられたシナリオ（架空の症例）について学生が自主的に学習を行い、討論会を行う「チュートリアル実習」（4年次）を導入している。5年次から6年次前半に実施される「臨床実習」、「特別臨床実習」では、学生が遭遇する様々な症例に関して、自主学習の機会を提供している（前出資料3-1-D）。保健学科では、TOEIC-IP受験の義務化に取り組み、臨地実習では、自主学習のための種々の課題を与えている（前出資料3-1-D）。また、自習室、情報機器室、学内無線LAN等のハード面の整備（資料3-2-B）とともに、様々なソフト面の対応を実施している（資料3-2-C）。

## 資料3-2-A 履修指導の実施状況

	実施組織	時期	対象	実施内容
教養教育	教養教育実施機構	4月	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>口頭による教養教育の概要説明</li> <li>学務情報システム SOSEKI による履修登録について説明</li> <li>遠隔学習支援・指導システム（WebCT）の活用について解説</li> <li>単位の実質化に向けた「厳格で一貫した成績評価法」の説明</li> <li>キャリア支援科目の履修啓発</li> <li>教育職員免許取得希望者への手引き配布とガイダンス実施</li> </ul>
	教務委員会	4月	1-4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教養教育の概要説明（1、2年生）</li> <li>専門教育の概要説明（1-4年生）</li> <li>「厳格で一貫した成績評価」について説明</li> <li>CBT、OSCE について説明（4年生）</li> </ul>
医学科	学生委員会	4月	1-4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生生活全般や精神衛生管理に対する注意</li> <li>悪徳商法や飲酒に関する注意</li> </ul>
	学生委員会 医学科長	5、6月	留年者 欠席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談による留年者への履修指導と生活指導</li> <li>面談による欠席者への履修指導と生活指導</li> </ul>
	組担当	4月	1、2年	履修・学習指導及び生活指導を実施
保健学科	教務委員	4月	1-4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教養教育の概要説明（1年生）</li> <li>専門教育の概要説明（1-4年生）</li> <li>「厳格で一貫した成績評価」について説明</li> </ul>
	教務委員/組担任	4月	1年	専攻ごとに専門科目の履修指導
	看護教育学講座	4月	1年	高等学校教諭一種免許状取得について概要説明
	学生委員会	4月	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア支援に関する講演会の開催</li> <li>悪徳商法や飲酒に関して注意を促す講演実施</li> <li>学生生活全般や精神衛生管理に対する注意</li> </ul>
	科目担当者	4、9月	1-3年	臨地実習に関するオリエンテーションを実施
	教務委員会	3月	1年	学生ごとに成績確認と履修・学習指導を実施
	母子看護学講座	3月	3年	助産師国家試験受験資格取得のための履修指導

出典：平成19年度学生便覧（医学科、保健学科）、各種委員会記録に基づいて作成

## 資料3-2-B 学生の自主的学習を促すための施設整備状況

区 分	自習室・情報機器	情報機器室・情報機器
全 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館自習室拡充</li> <li>・自習室に学生用パソコン設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育室の開設</li> <li>・学内無線 LAN 配備</li> <li>・黒髪北地区にパソコン室を整備</li> </ul>
医学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チュートリアル室（13室）のパソコンの整備 13台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合研究棟内情報処理室にパソコンを整備（108台）</li> </ul>
保健学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生貸し出し用パソコンの整備 17台</li> <li>・自習室としてE棟1階共有室2を22:00まで開放</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1情報演習室にパソコンを整備(49台)</li> <li>・第2情報演習室にパソコンを整備(32台)</li> </ul>

出典：設備整備状況の調査に基づき作成

## 資料3-2-C 学生の自主的学習への支援例

方 法	対 応
教員室の開放：学生による教員室訪問	適宜、質問に回答
学生によるメール質問	メールで回答
教員による自主学習課題の提示（課題学習）	理解度の低い学生への学習指導
演習科目で技術試験及び技術チェック不合格者への実技指導	マンツーマン指導
看護学専攻の任意実習のアレンジと調整	利用者の臨地実習を支援
医師国家試験対策自習室の設置(24:00まで開放)	利用者のグループ学習を支援

出典：各種委員会資料に基づいて作成

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

医学科では、大教室での座学のみによる教育を脱却し、学生が主体的に取り組む**早期社会体験学習**、**基礎演習**、**種々の形態の臨床実習**などの**体験型学習**を大幅に導入している。**チュートリアル実習**は、学生による自主的学習の促進と双方向教育に役立っている。保健学科では、実際の医療現場や生活の現場での**臨地実習**において、理論と実践を統合できるように講義、演習、実験、実習などの授業形態がバランス良く授業形態が組み合わせられている。また、学生の主体的な学習を促すためのハード面及びソフト面での支援体制が整備されている。このようなPBL教育の充実と自主的学習の支援体制によって、生涯学習が必須とされる医師をはじめとする医療従事者にとって不可欠な「**自主学習の習慣**」が十分に涵養されている。

以上から、本学部における取組みは極めて良好で関係者の期待を大きく上回ると判断される。

## 分析項目 学業の成果

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

医学部学生の単位取得率は極めて高いレベルにある(資料4-1-A)。留年率や休学率は低く(資料4-1-B)、進級状況は高い水準にある。資料4-1-Cには、医学科卒業・修了者の修業年数別人数を示した。保健学科は平成19年度に完成年度を迎えたため、修業年数別人数はデータがない。

学位授与状況は、両学科とも良好である(資料4-1-D)。資格取得に関しては、医学科新卒者の医師国家試験合格率は概ね90%を維持するとともに向上傾向にあり、新規カリキュラムによる教育を受けた平成19年度卒業生の医師国家試験合格率は98.9%で、全国の医科大学(医学部)中第3位であった。保健学科卒業生の国家試験合格率は、いずれも全国平均を上回っており、なかでも看護師と臨床検査技師の合格率は100%であり、医学科と共に「合格率97%を上回る」という中期目標を達成した(資料4-1-E)。

## 資料4-1-A 医学部学生の単位取得状況

学年	平成16年度			平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	履修登録者数	単位取得者数	単位取得率									
1年	7,510	7,185	96%	7,621	7,305	96%	7,623	7,367	97%	3,675	3,460	94%
2年	1,661	1,606	97%	5,654	5,328	94%	5,725	5,466	95%	3,140	3,012	96%
3年	700	682	97%	747	734	98%	4,421	4,350	98%	3,240	3,071	95%
4年	559	550	98%	3,277	3,265	100%	3,400	3,399	100%	645	633	98%
5年	2,496	2,496	100%	2,808	2,808	100%	0	0	-	0	0	-
6年	2,481	2,456	99%	2,526	2,502	99%	2,824	2,799	99%	2,712	2,712	100%
全体	15,407	14,975	97%	22,633	21,942	97%	23,993	23,381	97%	13,412	12,888	96%

1-4年は医学科と保健学科の合計。医学科5年(H18,19)は臨床実習中で単位認定はない。

出典：全学保有データを基に作成

## 資料4-1-B 医学部の留年・休学者数

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
留年者数(留年率)	18(3%)	23(3%)	45(5%)	48(4%)
休学者数(休学率)	9(1%)	7(1%)	10(1%)	7(1%)

出典：全学保有データを基に作成

## 資料4-1-C 医学科の卒業・修了者の修業年数別人数(人)

修業年数	平成16年度	平成17年度	平成18年度
6年	85	83	96
7年	9	12	13
8年	1	2	2
9年以上	0	2	1
その他(編入学者)	0	0	0
計	95	99	112

出典：全学保有データを基に作成

## 資料 4 - 1 - D 医学部における学位授与状況

学 科	学位名称	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
医学科	学士(医学)	95	99	112	94
保健学科*	学士(看護学)	該当なし			74
	学士(保健学)				57

\*保健学科は平成 19 年度に完成年度を迎え、最初の卒業生を送り出した。

出典：全学保有データを基に作成

## 資料 4 - 1 - E 医学部卒業生の取得資格の状況

学 科	資格名	新規卒業生中の国家資格取得者数							
		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度	
		合格者数 (受験者数)	合格率 (%)	合格者数 (受験者数)	合格率 (%)	合格者数 (受験者数)	合格率 (%)	合格者数 (受験者数)	合格率 (%)
医学部	医師	87(94)	92.6	93(98)	94.9	98 (110)	89.1	93 (94)	98.9
保健学科	看護師	-	-	-	-	-	-	65 (65)	100
	保健師	-	-	-	-	-	-	70 (74)	94.6
	臨床検査技師	-	-	-	-	-	-	27 (27)	100
	診療放射線技師	-	-	-	-	-	-	22 (25)	88
	助産師	-	-	-	-	-	-	13 (14)	92.9
	高校教諭一種 免許(看護)	-	-	-	-	-	-	5 (取得者)	-

保健学科は平成 19 年度に完成年度を迎え、最初の卒業生を送り出した。

出典：教授会等資料(合格発表により、本学出身者を確認)

## 観点 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

本学では学生による「授業改善のためのアンケート」を 2004 年度後期から実施している(資料 4 - 2 - A)。医学部におけるアンケート回収率は 50~80%程度であり、担当教員からの授業改善策に関するコメントが Web 上で回答されている(資料 4 - 2 - B)。アンケート結果では、医学部学生の授業に関する評価は良好である。

学業の成果に関する医学部学生の評価については、卒業生の資格取得状況から伺うことが出来る。医学部卒業生の資格取得状況は、両学科とも全国水準を大きく上回っており(前項資料 4 - 1 - E)、学業の成果に関する学生の評価は高いと考えられる。次項で示すように卒業後に本学部附属病院で研修する卒業生の割合が、地方大学にも係わらず 30-45%と高いことも、学生による本学部の教育評価が高い証拠と考えられる。

## 資料4-2-A 学生による「授業改善のためのアンケート」の実施要項

## 授業改善のためのアンケート 実施要領

## 1. 全体の方針

目的：学生の視点からの授業改善に資すること。

対象：教養教育、各学部教育、各研究科（修士課程）教育。ただし、実際に対象とする授業科目については、各部局等で定めるものとする（例：履修登録者20名以上の全授業科目）。

実施：原則として各学期の最終回の授業で実施することとする。なお、実施に際しては、学生に対し事前に趣旨説明を行うこととする。

## 2. アンケート票

- ・アンケートの全学共通項目については、別紙のとおりとする。
- ・各学部等で独自の設問項目がある場合は、著しく多くならない範囲で追加するものとする。

## 3. 配布・実施・回収

- ・マークシート方式で無記名する。
- ・教員は10分前に授業を終了して、アンケート票及び回答票を配布し、回収させる学生を指名してから退出する。その後にアンケート調査を実施する。回答終了後、教員が指名した学生に回答票を回収させ、その場で封緘させて、各学部の教務系担当、学務部総務課に設置された回収箱に提出する。

なお、教員が指名する学生の人数は受講者数に応じて教員が決めるものとする。

## 4. 集計・分析

- ・マークシートの集計については、学務部教務課において行う。

## 5. 公表・活用

授業評価結果の活用を教員の個人任せにしないような手立てを講じ、各部局等の評価結果の分析を基にして全学的な状況把握を行う。

## (1) 教員

・授業担当教員には、自由記述以外のすべての回答について、回答者別（行方向）・質問項目別（列方向）の数値データの一覧表、各質問項目の回答率・平均・標準偏差、自由記述全体の内容、をEXCEL(Windows またはMacintosh版)のファイルとしてフィードバックする。

・それぞれの教育単位で、授業についての情報を共有する。ただし、教育単位は授業改善を可能な限り促進できるように、柔軟に組織するものとする。教育単位内では個々の授業に対する各質問項目の回答率・平均・標準偏差、自由記述の内容についての授業評価結果の情報を共有するものとする。

\*教育単位の例として以下のものが考えられる。

教養教育実施機構の教科集団中の授業担当教員集団

学科

一定の教育プログラムの担当教員集団

複数開講されている同一名称科目の担当教員集団

- ・各部局等は、授業評価結果を分析したものを整理して、学内で公表するものとする。

## (2) 学生

・受講学生に対して、授業評価の集計結果及び授業担当教員のコメントを、「授業改善のためのアンケート結果公開システム」上に示すものとする。このとき、該当しない質問項目について、授業担当教員が言及する。

## (3) その他

各部局等の判断で、授業評価結果の情報をHPなどで公表することができるものとする。

## 6. 授業改善の方策の検討

・授業担当教員は、授業実施報告書を各部局等に提出する。この授業実施報告書には、教員の氏名、開講部局等の名称、授業科目名、履修者数を明記したうえで、「学生による授業評価」結果に対するコメント、成績評価の結果に対するコメント、次年度以降の授業改善の方策、を記すものとする。

・そのうえで、教育単位で、共有情報と授業実施報告者に基づいて検討するなどして、授業改善を自的としたFD活動を行う。

資料 4 - 2 - B 学生による「授業改善のためのアンケート」の実施状況

		2004 (H16)年度後学期											
		対象科目数	実施科目数	履修者数	実施率	回収率	コメント入力率						
学 科	医学	47	29	2,366	61.7%	67.4%	10.3%						
	保健学	32	18	847	56.3%	79.6%	83.3%						
		2005 (H17)年度前学期						2005 (H17)年度後学期					
		対象科目数	実施科目数	履修者数	実施率	回収率	コメント入力率	対象科目数	実施科目数	履修者数	実施率	回収率	コメント入力率
学 科	医学	18	14	1,374	77.8%	64.5%	35.7%	29	27	2,370	93.1%	59.7%	37.0%
	保健学	49	47	2,129	95.9%	76.8%	76.6%	47	46	2,182	97.9%	68.4%	32.6%
		2006 (H18)年度前学期						2006 (H18)年度後学期					
		対象科目数	実施科目数	履修者数	実施率	回収率	コメント入力率	対象科目数	実施科目数	履修者数	実施率	回収率	コメント入力率
学 科	医学	30	24	2,429	80.0%	55.2%	4.2%	30	29	2,419	96.7%	61.6%	58.6%
	保健学	89	84	3,893	94.4%	76.4%	29.8%	66	62	2,696	93.9%	76.8%	85.5%
		2007 (H19)年度前学期											
		対象科目数	実施科目数	履修者数	実施率	回収率	コメント入力率						
学 科	医学	77	41	3,793	53.2%	52.3%	36.6%						
	保健学	109	98	4,815	89.9%	82.6%	63.3%						

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

学生による「授業改善に関するアンケート」に基づき、授業内容の改善が図られており、授業に対する学生の評価は高い。また、在学中の単位取得状況や医学士、看護学士、保健学士の学位授与状況から、本学部における教育成果は十分に上がっていると判断される。平成 19 年度医学科卒業生の医師国家試験合格率は 98.9%、保健学科卒業生では、看護師と臨床検査技師の国家試験合格率が 100%で、いずれも「合格率 97%を上回る」という中期目標を達成した。

以上から、医学部卒業生による資格取得は高水準を維持しており、学業の成果については関係者の期待を大きく上回ると判断される。

分析項目 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

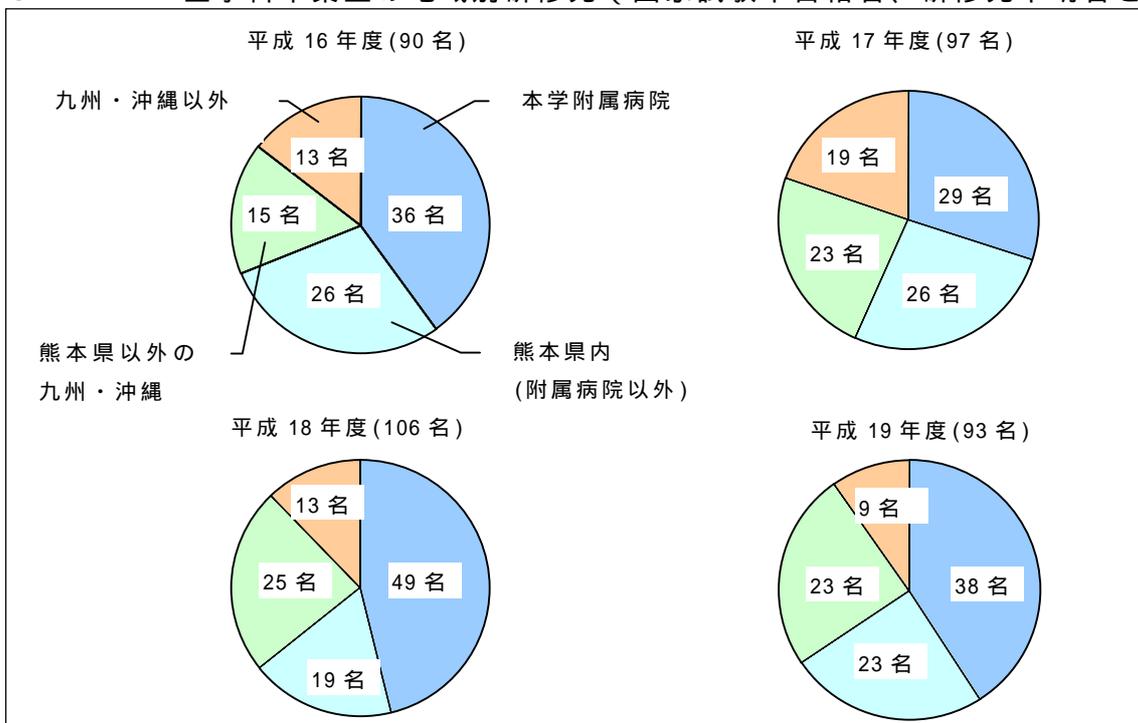
観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

医学科卒業生は卒業後、全員が医師国家試験を受験し、合格すると医師となり、2年間の卒後研修を行うことになっている。過去4年間の本医学科卒業生の初期研修先は、本学部附属病院が30~46%で、熊本県内の他病院を含めると、卒業生全体の57~69%が県内で初期研修を行っている(資料5-1-A)。初期研修後は、その多くが地域医療の中核として活躍している。

保健学科では平成19年度に最初の卒業生を送り出したが、それぞれの専門分野の特性を生かした就職先であり、一部の卒業生は上級教育機関に進学している。就職率は、看護学専攻及び放射線技術科学専攻が100%、検査技術科学専攻も96.2%と高水準であり(資料5-1-B)、多くが熊本県内あるいは九州・沖縄地区に就職している(資料5-1-C)。

資料5-1-A 医学科卒業生の地域別研修先(国家試験不合格者、研修先不明者を除く)



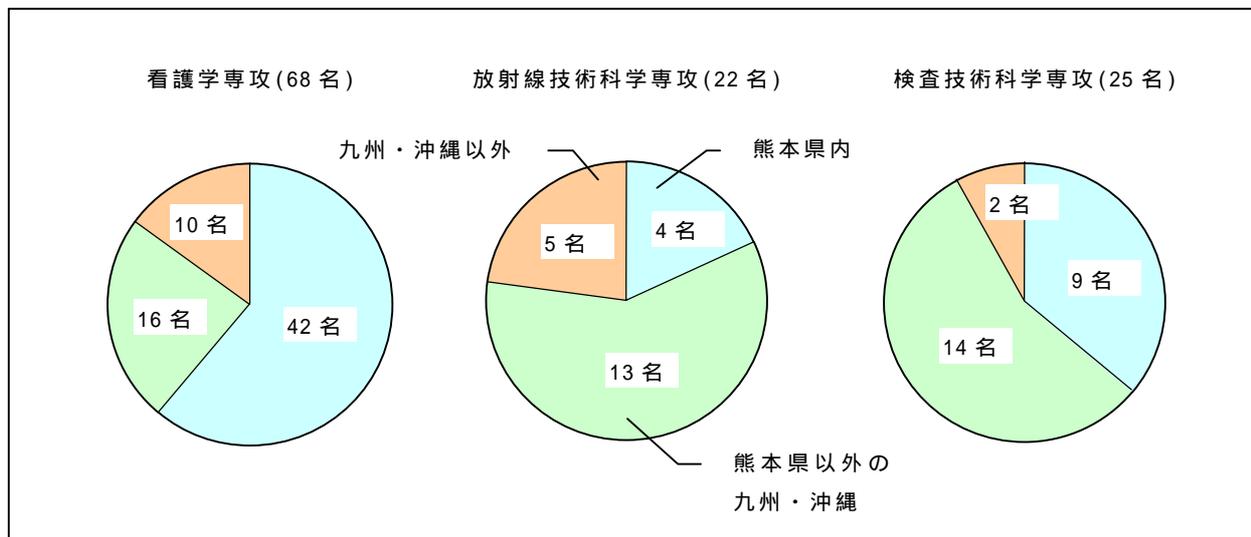
出典:「就職(進学)予定先」アンケートを基に作成

資料 5 - 1 - B 保健学科卒業生の就職・進学状況(平成 19 年度のみ)

	看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻	
卒業者数	74	28	29	
就職希望者	68	22	26	
就職者	68	22	25	
就職率	100%	100%	96.2%	
進学者	3	6	3	
その他	3	0	1	
就職	国公立病院	57	19	17
	養護教諭	2	0	0
	地方公務員	8	2	4
	国家公務員	1	1	0
	民間企業(株式会社)	0	0	4
進学	本学大学院保健学教育部	1	6	2
	本学養護教諭特別別科	2	0	0
	専門学校(専攻科)	0	0	1

出典：全学保有データ及び卒業生アンケートを基に作成

資料 5 - 1 - C 平成 19 年度保健学科卒業生の地域別就職先



出典：全学保有データ及び卒業生アンケートを基に作成

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

医学部では、在学生・受験生及びその家族、卒業生、卒業生を雇用する医療機関関係者、ならびに地域医療の恩恵を受ける患者及びその家族、健康増進を願う地域住民等の関係者を想定しており、様々な機会に、学部教育や卒業生の評価について意見聴取を行っている(資料 5 - 2 - A)。

受験生による本学部の評価は高く、医学科の受験難易度は全国の医科大学(医学部)の上位3分の1に属し、入試倍率は前期・後期の何れも10倍を超えている。保健学科の入試倍率も各専攻で2.5~4.5倍程度を維持し、受験生からの評価は高い。

本医学科出身者は、国内外の多くの医療機関で活躍しており、とくに熊本県内においては地域医療の中核的役割を果たしており、期待も大きい。また優れた医学研究者・教育者を多く輩出しており、国内外の多くの医療系大学において本学医学科出身の教授が活躍し、社会から高い評価を得ている。

保健学科は平成20年3月に第1回目の卒業生を送り出したばかりで、関係者からの評価は、今後調査予定であるが、就職率は看護学専攻及び放射線技術科学専攻で100%、検査技術科学専攻も96.2%と高く、保健学科卒業生に対する社会からの評価が高いことを示している。

## 資料5 - 2 - A 関係者からの評価等、「教育の成果の評価」に関する調査の取組み

取組内容や意見聴取対象	担当部署	調査の概要と特徴
卒業生へのアンケート調査 就職先へのアンケート調査	学務部教務課	5年ごとに実施し、分析結果を全学の教育委員会及び学部の教務委員会に報告している。
OB・OGメッセージによる調査	キャリア支援課	OB・OGメッセージはホームページに蓄積・更新している。
医学科後援会 保健学科後援会	各後援会事務局	後援会役員会・総会等において在学生保護者から意見聴取
医学科同窓会（熊杏会） （会員数 8,880 名）	熊杏会事務局	毎年発行の同窓会誌（A4 版、200-220 頁、6,000 部）上で卒業生から意見聴取。総会、支部会、理事会で意見聴取。
保健学科同窓会 （会員数 7,950 名）	同窓会事務局	平成 16 年 4 月発足。毎年発行の会誌（5,500 部/年）上で卒業生から意見聴取。総会、理事会での意見聴取。
医療関連業種別団体	関連教員	地域の医師会、看護協会、放射線技師会、臨床検査技師会等における意見聴取
自治体医療行政担当者	関連教員	自治体医療行政担当者からの意見聴取
地域医療機関	関連教員	地域の国公立医療機関からの意見聴取
熊本県内高校との懇談会	入試委員会	高校関係者から意見聴取
肥後医育振興会	関連教員	肥後医育振興会は、地域の行政・医療・経済界等の代表者が参加し、医学教育を支援する組織で、役員会や公開講座（肥後医育塾）の参加者から意見を聴取している。
各種学会・研究会	出席教員	各種学会・研究会における意見聴取
研究室訪問者	全教員	研究室訪問者から意見聴取

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

医学科では卒業生のほぼ全員が臨床医や医学研究者・教育者、さらに医療・公衆衛生行政官となって活躍している。医学科卒業生は、熊本県における**地域医療の中核**をなすとともに、県内外の**医療・研究教育機関において指導的な立場**に立つ人材を多く送り出している。保健学科は平成 20 年 3 月に第 1 回目の卒業生を送り出したばかりであるが、**3 専攻の何れにおいても高い就職率**を示し、保健学科卒業生に対する社会からの評価が高いことを示している。

以上から、進路・就職の状況や関係者からの評価は非常に良好であり、関係者から期待される水準を大きく上回ると判断される。

## 質の向上度の判断

**事例 1 「高水準の医学教育実施体制の構築」(分析項目 )**

(質の向上があったと判断する取組)

本医学部は、中期目標・計画に沿って平成 15 年 4 月に改組を行い、教員・研究組織である「医学薬学研究部」及び大学院教育組織である「医学教育部」を設置し、これにより**医学部医学科は学部教育を専務とする組織となり、学部教育の実施体制が強化された**。保健学科は、医療技術短期大学部と教育学部特別教科(看護)教員養成課程を改組・総合して、平成 15 年 10 月に設置された。看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の資格及び高等学校教諭一種免許(看護)が取得可能な履修コースが設置され、**多様な医療関連従事者の育成に対応した医学教育実施体制が整備された**。

従って、医学部では改組により高水準の医学教育実施体制が構築され、質が向上している。

**事例 2 「学生参加型医学教育 FD ワークショップ等の FD 活動の充実」(分析項目 )**

(質の向上があったと判断する取組)

医学科では、**学生参加型の「医学教育 FD ワークショップ」の実施によりカリキュラムや教育内容の改善が図られた**。保健学科では、FD 活動の一環として、教員による模擬授業の実施と討論、WebCT を使った講義資料の作成等の取組みにより教授法に向上がみられた。

従って、医学部では FD 活動の充実により、医学教育の質が向上している。

**事例 3 「高水準の医学教育を可能にしたカリキュラムの整備」(分析項目 )**

(質の向上があったと判断する取組)

医学科では**医学教育モデルコア・カリキュラムに対応したカリキュラム改革が実施され、全国共用試験(CBT 及び OSCE)に対応した新規カリキュラムが完成した**。さらに、**双方向性教育の導入、PBL の推進、体験学習の拡充を積極的に実施した**。さらに、生命倫理学分野を新設し、**医療倫理教育について力を入れ、医療情報管理に関する授業も強化した**。

保健学科では、**4 年制教育への移行に伴い、大幅なカリキュラム改革がなされ、教育課程の充実が図られた**。医療倫理観の醸成と個人情報保護を重視した取り組み、電子カルテに対応した情報教育等を充実させ、高水準の教育課程を構築した。

従って、医学部のカリキュラムは大きく改善され、質が向上している。

**事例 4 「双方向性学習や問題解決型教育の導入と体験型学習の充実」(分析項目 )**

(質の向上があったと判断する取組)

医学科では、**学生が主体的に取り組む早期社会体験学習、基礎演習、チュートリアル実習、特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)などを取り入れ、体験型学習を多数取り入れると共にそれぞれの学習で課題を与え問題解決型(PBL)教育を推進している**。このような取組によって教育体制は大きく改善した。

保健学科では、**医療や生活現場による課題解決型(PBL)の臨地実習(臨床実習)を充実させ、専門医療職教育に効果を挙げている**。病院実習におけるチーム医療演習を充実させ、**双方向性学習を強化した**。

従って、医学部における教育方法は大きく改善しており、質が向上している。

**事例5 「国家試験における高い合格率」(分析項目 )**

(質の向上があったと判断する取組)

医学科新卒者の医師国家試験合格率は向上傾向にあり、平成19年度は98.9%であった。保健学科卒業生では、看護師と臨床検査技師の国家試験合格率が100%であり、いずれも「合格率97%を上回る」という中期目標を達成した。

従って医学部卒業生の資格・免許の取得率は高水準を維持しており、教育に対する学生の評価も高く、教育課程の質の向上が反映されている。

**事例6 「地域医療の中核を担う人材育成」(分析項目 )**

(質の向上があったと判断する取組)

本学部の卒業生の多くは、熊本県ならびに九州圏内における地域医療の中核を担う医療者として活躍している。とりわけ、熊本県内で唯一の医師養成機関である医学科の卒業生は、57~69% (平成16~19年度) が県内で初期研修を行い、その後も地域医療の中核として活躍している。この様な観点から、本医学部における医療者教育は、地域の医療機関並びに地域社会から高い評価を受けるとともに大きな期待を担っていると判断される。

従って、医学部における進路・就職の状況は高い水準を維持している。